

女性理学療法士が結婚・出産・育児を経て就労継続するための因子について

学籍番号 05M2419 氏名 森澤 紅子

1. 研究目的

理学療法士の需要と供給が高まる中、女性の占める割合も徐々に増えている。このような状況の中、金森ら(2003)により『多くの女性理学療法士が出産後も勤務継続を希望している』との報告がなされている。しかし、その継続についての要因を明らかにした報告を確認することは出来なかった。そこで本研究の目的は、女性理学療法士が結婚、出産、育児をこなしながら就労継続するための要因を明らかにし、働き方や就労先を選択する際の一助とすることにある。

2. 対象と方法

◎対象：青森県内に勤務する女性理学療法士79名とした。

◎方法：

- 1)青森県内の施設または個人に対し自記式無記名のアンケートの依頼を行い、了承を得られた対象施設、対象者にアンケートを配付した。
- 2)アンケートは、結婚、出産、育児のいずれも経験したことのない群(未経験群)と、いずれかを経験したことのある群(経験群)に対して行った。更に経験群に対しては、アンケート末尾でインタビューの依頼を行い、了承を得た対象者には連絡先を記入してもらった。
- 3)インタビューは半構成的面接とし、研究者と1対1で実施した。

3 . 結 果

問い(①～⑤は未経験群に対して、⑥～⑬は経験群に対しての問い)	ある	ない	他
①就職する際、結婚や出産、育児について想定して現職場を決定しましたか	2人	40人	
②将来結婚や出産、育児を経てもPTとしての就労を継続したいと思いますか	35	7	
③先の問いで「継続したい」を考えられた方は現職場での継続をしたいと思いますか	20	10	
④結婚や出産の後にも就労を継続するためには何が重要だと思いますか			39
⑤『結婚や出産、育児が歓迎されない職場がある』という話を聞いたことがありますか	12	26	
⑥結婚や出産、育児は就労の継続に影響がありましたか	12	9	
⑦結婚や出産、育児により就労が困難だとかんじたことがありますか	13	6	
⑧『結婚や出産、育児が歓迎されない職場がある』という話を聞いたことがありますか	12	9	
⑨結婚や出産、育児をしながらも就労を継続された理由について			21
⑩結婚や出産、育児を経験する前後で働き方に変化はありましたか	18	3	
⑪結婚や出産、育児をしながら就労を継続するために何らかの方策を講じましたか	15	6	
⑫結婚や出産、育児をしながら就労を継続するために必要だと思うことがありますか	20	0	
⑬就労を継続してよかったと思うことはありますか	17	3	

4. 考察

結婚・出産・育児を経ても就労を継続するために必要なこととして、両群ともに職場環境に関する意見が多くみられた。但し未経験群では『体制の改善』を求めているのに対し、経験者群では『職場内のスタッフへの理解』を求める意見が多かった。このことより経験群は、職場の体制に対する問題に関しては、解決若しくは回避することで就労継続を可能としたと考える。

また就労継続に必要なことについて、経験群の多くは『同僚の理解・協力』と答えていた。それに対する具体的方策についてはインタビューにより、『普段の何気ない会話で家族の状態を知ってもらうよう努め、それにより同僚の理解・協力を得る』との回答が得られた。このことから、個々の家庭での問題に対して同僚から理解と協力を得る為には、普段の業務を通じ、日

ごろより円滑な人間関係を構築していくことが重要と考える。